

二〇二五年二月二七日

柚子ひとつ足して寛ぐ仕舞風呂  
農耕機収む小屋にも松飾り  
新米を苞にいつもの庭師来る  
掛け時計遅れ正して年用意  
落葉掃くシルバーカーを頼みとし  
一軒家包む千手の枯木影

澄子  
愛正  
うつぎ  
わたる  
よし女  
康子

二〇二五年二月二六日

寒柝や声の揃はぬ三廻目  
温かな蒲団の中でストレッチ  
降誕祭スリッパを足し椅子を足し  
懐かしき旅行のしおり古日記

やよい  
えいじ  
和繁  
なつき

二〇二五年二月二五日

数へ日の空港に娘を見ついたり  
裸木に数珠なし光る雨の粒  
二上も三輪もすつぱり霧隠れ  
ストーブを抱いて客待つ朝市女

むべ  
よし女  
明日香  
なつき

二〇二五年二月二四日

山茶花の散り敷く紅を掃かで置く

よし女

二〇二五年二月二三日

痺れたる指先沈め冬至風呂  
屈曲を指でなぞりし寒北斗

むべ  
えいじ

二〇二五年二月二二日

布巾もて包む湯飲みや葛湯吹く  
片時雨愛宕山には日の差して  
そこそこの息災謝して柚子の風呂  
我が短軀異様に伸びし冬至影  
冬至南瓜切り割く鉈の潔し

むべ  
もとこ  
たか子  
千鶴  
なつき

二〇二五年二月二二日

編み棒を指揮棒代はり聖歌隊  
天恵の冬日背に負ふ散歩かな  
冬木の芽肩に触れもすお砂踏み

むべ  
青海  
なつき

毎日句会みのる選・二〇二五年二月二九日